

## 移動水族館 0歳児クラス～4歳児クラス

### 活動

0歳児クラス 11名 20分

- ・移動水族館を体験する。

### ○活動内容

- ・海の中にある様々な生き物を見て「何だろう？」と興味を持つ。
- ・海の生き物を見たり、触れたりして五感で感じる。

### 準備したもの

移動水族館業者による設定（ウミガメ、ヒトデ、ナマコ、カブトガニ、金魚等）

### ○保育者の問いかけやアプローチ

- ・生き物というよりも、玩具や物という感覚だろうと思ったので、一緒に見ながら、「泳いでるね」「カメジロウ君っていうお名前なんだって」「おいでーって言ってみようか？」「呼んだら来るかもよ」などと親しみがわくように声を掛け、保育者も一緒に楽しむことで、安心して見ることが出来るようにした。怖がる子は、抱っこなどして安心出来るようにした。
- ・少人数（1～2人）ずつ保育者と水族館を見に行き、生き物が泳ぐ様子や動くこと伝えながら興味を持てるようにする。
- ・触れてみたいと思う子には安全に配慮しながら係の人に従って触れることが出来るようにした。また、保育者が手の平に乗せてみせて興味を持った子が一緒に触れられるようにした。

### ○子どもの様子

- ・ウミガメの水槽→抱っこして見せたら、じっと見る子、保育者と一緒に「バイバイ」と手を振って「おいで～」と呼びかける子がいた。怖そうに顔を背ける子や、その場所から離れたがる子もいたが興味津々に水槽に泳いでいる金魚を追視し観察している子もいた。
- ・小さい生き物、ナマコやヒトデは実際に手で持って感触を確かめていた子もいる。生き物という感覚はなく、力加減せずに握りしめている子もいれば、恐る恐る、優しく持つ子もいた。
- ・水槽の水に両手を入れて、バシャバシャと水の感触を楽しんでいる子もいた。

### ○振り返り

保育者の声掛けで、生き物だという認識が出来た子もいたが、まだまだこの年齢では、感触遊びの一環のような姿が多かった。それでも、ピオトープごっここの時に感じたように、自然物に直接関わり、水の中で泳ぐ生き物を「なんだろう？」と見たり、触れたりしたことは、興味関心が広がる体験になったと思う。この体験が少しでも継続するように、環境の中に（絵本や写真など）を取り入れていってみたいと思った。



### ○活動内容

- ・海の生き物を観察し、名前を聞くなどして海の生き物への興味を広げる。
- ・保育者と一緒に海の生き物に触れ、五感で感じる。

#### 準備したもの

- ・移動水族館

### ○保育者の問いかけやアプローチ

- ・グループを作って少人数ずつゆったりと観察が出来るようにする。
- ・準備の段階から楽しみにしている様子うかがえたので「あとで順番に見に行こうね」「何がいるかな」「そーっと触ろうね」などと声掛けをする。
- ・中には初めてのことが苦手な子どもや海の生き物を怖がる子どももいたため、保育者がそばにつきながら安心して観察できるようにかかわった。
- ・保育者が手の上ののせて子どもが触りやすいようにするなどして、どのような関わるか様子を見る。

### ○子どもの様子

- ・前日から水槽の準備などが始まっていたため何か始まることはわかっているようだった。
- ・初めてのことで興味をもって、触ってみるなどのふれあいが出来る子どももいたが、怖がって保育者から離れない子もいた。
- ・「これなに？」と保育者や飼育員に生き物の名前を聞いていた。
- ・指を差して「いた！」「ここにもいるね」など子ども同士で教え合っている姿が見られた。



### ○振り返り

- ・園庭にできたビオトープに「何？」と興味を示す姿や、保護者からいただいためだかを毎日のように観察している子がいた中での移動水族館となった。しかし、たくさんの水槽が設置され、いつもと違う様子を、怖がる子もいた。保育者がそばにつきながら安心して観察できるようにしたが、絵本や写真を事前に用意して、親しみを持てるような環境作りをしていたら、実物を見た時にもっと主体的にかかわる姿や、思考する姿につながったのではないかと、振り返りで反省が上がった。
- ・これがきっかけになって水辺の生き物についてさらに興味を深めていけるようにしていきたい。

## ○活動内容

移動水族館での触れ合い体験。

エントランスに設置された水槽にて、身近な海の生き物（ナマコ・ヒトデ・金魚・ウミガメ等）を観察し、実際に触れる体験活動を行った。

2歳児クラス14名 30分

### 準備したもの

移動水族館業者による設定(ウミガメ・ヒトデ・ナマコ・カブトガニ・金魚等)

## ○保育者の問いかけやアプローチ

- ・生き物に触れる際、加減が分からず強く握ってしまう子に対し、飼育員と連携して「優しく触るんだよ。」「生き物もドキドキしているよ。」と生き物の気持ちを代弁しながら具体的な触れ方を伝えた。
- ・「触るとどんな感じがする?」「カメさんは何を食べているのかな?」と問いかけ、視覚だけでなく触覚や観察に基づいた発見を促した。
- ・子どもたちの「お星様みたい」「ふにふにする。」といった感性豊かな表現を拾い上げ、周囲の友だちとも共有できるよう言葉を添えて見守った。

## ○子どもの様子

- ・意欲的にナマコやヒトデに手を伸ばす子もいる一方で、友だちの様子を観察してから慎重に触れる子、離れた場所からじっくり眺める子など、それぞれのペースで生き物と向き合っていた。
- ・金魚を見て「きれいだね。」と喜んだり、ヒトデの形から「お星様」を連想して『きらきらぼし』の歌を口ずさんだりする姿があった。また、ナマコを「ふにふに」、ヒトデを「かたい」と適切な言葉で感触を表現していた。
- ・餌を食べないカメに対し「ドキドキしているのかな?」と自分の感情を投影して考える発言が見られた。生き物を単なる観察対象ではなく心を持った存在として捉えている姿が印象的であった。



## ○振り返り

- ・視覚・触覚・聴覚をフルに活用し生命の躍動感に直接触れることで子どもたちの知的好奇心が大きく刺激されたと感じる。飼育員のアドバイスを通して「命を大切に扱う（優しく触れる。）」という実践的な学びを得られたことが良かった。
- ・カメの餌がワカメであることへの驚きなど活動の中で生まれた疑問や発見を一時的なものにせず、図鑑や絵本などで知識を深められる環境を整えたい。またこの体験を絵画活動につなげ表現の幅をさらに広げていきたい。

### ○活動内容

移動水族館での触れ合い体験。エントランスに設置された水槽にて、身近な海の生き物（ナマコ・ヒトデ・金魚・ウミガメ等）を観察し、実際に触れる体験活動を行った。

### 準備したもの

- ・海の生き物かるた
- ・海の生き物塗り絵
- ・タブレット
- ・クレヨン

### ○保育者の問いかけやアプローチ

事前学習の一環としてかるたや塗り絵を準備して興味を持てるようにした。その中に出てくる生き物の名前を「なんていうか知ってる?」と聞いてみたり、「何を食べるのかな」「どこに住んでるのかな」などと問いかけてみた。また、移動水族館に来る生き物について紹介して、タブレットを使いながら、特徴などを知ったり、触り方を知ったりと、海の生き物について考えられるような時間を作っていた。

### ○子どもの様子

園庭のピオトープのめだかを放流したり、様子を日々観察したり、水辺の生き物に興味関心の高い状態からの移動水族館だった。そのため、事前調べなどにも興味を持つ子が多く、当日も自分たちが調べた生き物を実際に目で見て触れることをとても楽しんでしたが、動画や写真で見ていたときには気に入っていたものが、実際に見ると感触や動きが苦手な姿も見られた。

自分たちが調べた海の生き物を目の前にして触れること感触を確かめることが出来、「かたい」「チクチクする」「やわらかい」「ぷにょぷにょ」等、言葉で表現する姿があった。

あまり知らない生き物も多くいたがタブレットを使用して、触れる部分、触ったら危ない場所を視覚的に確認しておいたため、「ここは触ったらいけないよね」「ここを持てば痛くないよね」等確かめながら触れていた。



## ○振り返り

園庭にできたビオトープに興味津々だった子どもたち。日頃から保護者からいただいたためだかの様子をよく観察していた中での移動水族館となり、楽しみにしている様子が見られた。

移動水族館の職員に説明をしてもらったが、「知ってる!」と自信をもって話す子や、直接触れる時に、事前に学んだ触り方を実践している子が多く、活動の前に知ったことを確かめることで、さらに実感となっているように思った。力を入れて触ってしまう子や怖さから見ていただけの子もいたが、目の前で動いていて、直接触れることで触覚、嗅覚、なども含めた感覚をフル活動して「生きている」ことを実感でき、大切に触れようとする姿が印象的だった。

また、今回事前にタブレットを使ったことでの視覚的な学びは、絵本や図鑑にはない、「動き」があり、実際により近く、イメージが持ちやすかったように思う。

移動水族館の後は魚釣りごっこなども楽しみ、水辺のの生き物への興味が広がっていた。

4歳児クラス15名30分

## ○活動内容

移動水族館での触れ合い体験。

エントランスに設置された水槽にて、身近な海の生き物（ナマコ・ヒトデ・金魚・ウミガメ等）を観察し、実際に触れる体験活動を行った。

### 準備したもの

移動水族館業者による設定（ウミガメ・図鑑  
ヒトデ・ナマコ・カブトガニ・金魚等）、  
海の生き物かるた・海の生き物塗り絵・魚釣り  
電子黒板

## ○保育者の問いかけやアプローチ

- ・事前学習の一環としてかるたや塗り絵を準備
- ・海の生き物について考えられるような時間を作っていく。
- ・秋の遠足（多摩動物園）を通して電子黒板を使い、生態を調べることやお気に入りの生き物を見つけることを楽しんでいたので今回も子どもたちと一緒に調べていった。

## ○子どもの様子

- ・自分たちが調べた生き物を実際に目で見て触れることをとても楽しんでいった。
- ・動画や写真で見ている分には気に入っていたものが実際に見ると感触や動きが苦手な泣き出す姿も見られた。
- ・ウミガメの生態を調べていくうちにビニール袋を食べて死んでしまうこと、そのビニールやごみを捨てているのは自分たち人間だということに気づき、「おうちのひとに言わないと!」という姿もあった。
- ・かるたを通して海の生き物の種類を沢山知ることができ、そのあとのしりとりあそびや集団遊びで使うキーワードのネタにもなった。
- ・移動水族館に来る生き物について、特徴や、何を食べるか等を良く調べていて、飼育員に質問していたり、知っていることなどを意気揚々と話す姿があった。

## 〇振り返り

事前に、図鑑や、電子黒板を使って、水族館に来る生き物について調べていたことと、実際に実物を見ることでの実体験が一致した姿が見られ、

普段から生き物に興味を持ち、調べたり図鑑を見ていたりして楽しむ姿が多い中での移動水族館だった。図鑑や水族館で見るだけの生き物をさらに近い距離で見て・触れてという体験をしたことによって生き物を大切に扱わないといけないということに気づけたのではないかと思う。

また、生態を調べていくうちに自然や環境汚染の話まで膨らんでいった姿が印象的だった。

この経験や気づきが次年度にも継続して深められると良いと思った。

